

令和7年度 スズメバチ等駆除費補助金

赤磐市では、スズメバチ及びアシナガバチによる危害を防止し、市民生活の安全を確保するため、人に危害を及ぼすおそれのあるスズメバチ又はアシナガバチの巣を駆除業者に委託して駆除した者に対し駆除費の一部を補助します。



○ 対象者

次の要件を全て満たしている個人又は自治会

- 1) 市内にある建物又は土地に営巣されたスズメバチ等が活動している巣を、駆除業者に委託し、駆除したものであること。
- 2) 上記1の建物又は土地は、現に共同住宅（団地、アパート、社宅等）その他専ら事業の用に使用されていないこと。
- 3) 市税を滞納していないこと。

○ 対象経費

対象者が、スズメバチ等の巣の駆除費用として駆除業者に支払った費用

○ 補助金額

補助金の額は、駆除に要した経費の2分の1の額（100円未満は切捨て）
限度額は5,000円

○ 申請の期限

次のいずれか早い日まで

- 1) 駆除を実施した日から起算して90日を経過した日
- 2) 駆除を実施した日の属する年度の3月末日



○ 申請方法

申請書に次の書類を添付して環境課又は各支所市民生活課へ提出してください。

- 1) 駆除費の明細が記載された領収書の写し
- 2) 駆除を実施した場所の位置図又は見取図
- 3) 駆除前の写真（営巣が分かるもの）
- 4) 駆除後の写真（駆除した巣及び駆除後の建物等の様子が分かるもの）
- 5) 通帳の写し（振込先口座が確認できるもの）

○ 注意事項

- ※ 市の予算額に達した場合、受付を締め切ることがあります。
- ※ 裏面にハチの巣の予防対策を掲載していますので、生活環境保全にお役立てください。

《問い合わせ先》

〒709-0898

岡山県赤磐市下市344番地

赤磐市役所 市民生活部環境課

TEL 086-955-5347

FAX 086-956-3016

《申請窓口》

- ・ 市民生活部 環境課
- ・ 赤坂支所 市民生活課
- ・ 熊山支所 市民生活課
- ・ 吉井支所 市民生活課

ハチの巣の予防について

ハチは、時に人間の生活にとって脅威となります。毎年庭などにハチが営巣するといった場合などは、ハチのライフサイクルや巣作りの特徴を把握し、効果的に予防対策をしましょう。

○ハチの巣の特徴

【スズメバチの巣】

スズメバチは巣や群れが大規模化する傾向にあり、幼虫を育てるために膨大な量のエサを必要とします。軒下や屋根裏、木の枝、地中などあらゆる所で巣が確認できます。スズメバチはさまざまな種類が生息していますが、球体、外壁がある、マーブル模様のような縞があるという巣の特徴は共通しています。

【アシナガバチの巣】

アシナガバチの巣は、他の種類のハチと比較して小規模で大きいものでも 15 センチ程度です。お椀をひっくり返したような形状が特徴です。閉鎖的な空間にできることもあります、屋外の開放的な空間で見られることが一般的です。

庭の木や室外機など、民家周辺でもよく目にします。他のハチと比較すると、最もよく人間が生活する範囲に巣を作ります。

○ハチの巣を予防するタイミング

スズメバチとアシナガバチは、毎年春ごろから巣作りを開始するのが一般的。したがって、最適な予防時期は 4～5 月ごろとされています。木の皮の隙間などで越冬した女王バチは、4 月ごろから巣作りの場所を探すことから、この時期に単独でいる女王蜂を見かけた場合は駆除・予防の最適なタイミングです。

○ハチの巣の予防方法

ハチの巣の予防に最も効果的なのは、ハチを寄せ付けないことです。

【予防スプレー】

ハチの巣予防に効果のある殺虫スプレーが効果的です。ハチの嫌がる成分が含まれているため、噴きかけた場所にハチは近寄りません。即効性があり、スプレーによっては 1 か月前後の予防効果があります。入手も容易ですし、スプレーを噴きかけるだけでするので簡単に予防できます。

【木材から得られる木酢液】

焦げくさいにおいをハチが嫌うため、塗るだけでハチを寄せ付けない効果があります。木酢液も容易に入手でき簡単に使えますが、人にとっても木酢液のにおいは強烈です。ベランダなどでは使いにくいでしょう。

【網の設置】

ハチの巣は通気口やフードに作られやすいので、ここに網を張る方法も予防効果があります。ただ、高い場所にある通気口に網を張るのは危険を伴いますので、無理はしないでください。

【ハチトラップの設置】

巣作りをする前の 6 月頃まで仕掛け、女王バチを捕獲することにより家の周りに巣を作らせない効果が期待できます。

～ハチトラップの作り方～

①材料…2リットルペットボトル、誘引液（カルピス：日本酒、料理酒または酢＝5：1）、ひも、カッターナイフなど

②作り方…側面に、2cm角のHの文字の形に3～4か所切れ目を入れ穴を開けたペットボトルを用意。誘引液を底から5cm程入れ、ペットボトルの蓋をして風通しのよいところで、子どもの手が届かない高さ（1.5～2m）に吊るしてください。



広報あかいわ（令和5年5月）より